

様式第3号(第7条関係)

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 令和4年度第2回水戸市協働推進委員会
- 2 開催日時 令和5年2月28日(火) 午後1時30分から午後3時05分まで
- 3 開催場所 水戸市役所4階 中会議室1～3
- 4 出席した者の氏名
- (1) 委員 金本 節子, 大野 覚, 渡辺 賢治, 谷萩 美智子, 山辺 太
檜村 晶洋, 小島 幸子
- (2) 執行機関
- 【市民生活課】 参事兼課長 白石 嘉亮
副参事兼課長補佐 入野 高司
協働係長 浅川 勝彦, 主事 矢部 明日香
- 【公園緑地課】 千波湖管理室長 高根 尚久
千波湖係長 秋葉 健介
- 【生活安全課】 副参事兼課長補佐 海老澤 守
空家空地係長 鈴木 隆亮
- 【高齢福祉課】 副参事兼地域支援センター所長 小園江 雄一
介護予防係長 海老沢 明子
- 【生涯学習課】 課長 湯澤 康一, 課長補佐 島田 顕範
少年自然の家所長 森田 信行
- 【教育研究課】 課長 野澤 昌永, 指導主事 平山 智己
- 【農政課】 ふるさと農業センター所長 長谷川 祐紀
主査 草間 大輔
- 【泉町周辺地区開発事務所】 事業推進係長 小林 健典
主幹 吉元 一真
- (3) その他 NPO法人Happyリレーいろいろ
特定非営利活動法人ふるさと空き家相談・サポート
特定非営利活動法人ちいきの学校
特定非営利活動法人ひと・まちねっとわーく
株式会社ナムチェバザール
NPO法人セカンドリーグ茨城

- 5 議題及び公開・非公開の別 水戸市協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」に係る
令和5年度提案事業の公開プレゼンテーション（公開）
全体審議（非公開）
- 6 非公開の理由 (全体審議)
① 公にすることにより，当該団体の権利，競争上の地位その他
正当な利益を害するおそれがあるため。
② 公にすることにより，率直な意見の交換若しくは意思決定の中
立性が不当に損なわれるおそれ又は不当に市民の間に混乱を生
じさせるおそれがあるため。
- 7 傍聴人の数(公開した場合に限る。) 2人
- 8 会議資料の名称 令和5年度提案事業の概要
- 9 発言の内容

【公開プレゼンテーション】

委員長	ただ今から，令和5年度水戸市協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」のプレゼンテーションを始める。提案のあった6事業について，提案団体と市担当課から，事業の概要，協働による効果，役割などについて発表していただく。なお，審査を行っていく上で，委員の中で，提案のあった団体に所属する，または，密接な関係にある場合には，その提案事業の審査から外れるものとする。
提案団体 公園緑地課	〔発表：公園にハートいっぱいの種を蒔こう〕
委員	提案書の事業の内容に複数の活動が記載されているが，メインとなる活動は5 公園見守り子ども食堂でよろしいか。 また，提案書の事業の内容に，子育ての悩みを聞きながら，専門機関を案内するとあるが，専門機関はどこを想定しているか。
提案団体	子ども食堂をやっていると，公園を訪れる皆さんが信頼してくれているので，次に公園を訪れてくれる皆さんにも信頼や安心をお届けしたい。 また，新たなNPO法人「Happyえがお」を作り，県の認証を受けてフリースクールを立ち上げたいと考えている。理事長に児童相談所の退職者を充て，警察，消防，保健所，学校などいろいろな関係機関と連携し，自分たちだけの活動ではなく，つなげていきたい。
委員	少年の森で，子ども食堂をメイン事業に，様々な相談等が寄せられた場合には，公的機関を含め仲介するということでよろしいか。

提案団体	その通りである。
委員	<p>昨年の提案時、フリースクールにも尽力したい旨の説明があったと記憶しているが、今回は防災啓発活動に力を入れたいように感じた。フリースクールの現状や今後の展望、さらにはフリースクール運営に必要な人材は、どのようになっているのか伺いたい。</p>
提案団体	<p>フリースクールは、様々な理由で学校に行けない子を対象としているが、その親とともに親子で支援をさせていただいている。</p> <p>母親は子ども食堂で料理やボランティア活動に参加していただき、その姿を子どもたちに見てもらうことが大事である。親子を組み合わせることで、自団体のボランティア登録者数は150名を超えた。私たちだけでは何一つ出来ないが、ボランティアの皆様のご理解と御協力によって成り立っている。</p>
提案団体 生活安全課	[発表：空き家に関するワンストップ総合相談窓口事業]
委員	サブリースの提案を含めた相談対応とあるが、空き家バンクのような売買のマッチングまでは行わないということでしょうか。
提案団体	自団体の空き家バンクを運営する体力は正直まだないので、各自治体が持っている空き家バンクの情報を相談者に提供し、登録の支援を行うこととしたい。
委員	<p>そのうえで、お聞きしたいのが、おそらくニーズが高いたらうと想像され、当事業を始めるとなると、いろいろな相談が寄せられるのではないかと推測する。空き家の現状について調べたところ、県央・県北地域の自治体では、空き家バンクがかなり整備されているが、空き家バンクがまだない水戸市は少数派なのではないかと思う。当然、予算も関係する話なので、一概には言えないけれども、今後、空き家バンクを行うことを想定範囲に入れながら、当事業を進めていくものと思われるが、現時点での水戸市として空き家バンクについてどのように検討されているのか伺いたい。</p>
生活安全課	現在、本市の担当課において、空き家バンクの検討を進めており、近々成立する見込みであると聞いているが、時期はまだ明言できない。
委員	空き家バンクを見込んだ事業提案か。
生活安全課	その通りである。
委員	<p>今後も市内の空き家が増えていくことが予測されることは分かるが、現時点において、貴団体の対応件数が少ないのではないかと感じる。今の少ない件数であれば、さらに深入りしたサポートが出来るのではないかと思いますので、予測件数や割合など、今後の展望について目指すべき件数を教えていただきたい。</p>
生活安全課	<p>数字目標があるのかという御質問であれば、本市では、計画上の対応件数を毎年設定しており、それに基づき所有者等への指導を行っている。話しが逸れてしまうかもしれないが、本市への空き家に関する相談は、年間</p>

	<p>200～250件程度である。そのうち、半分の100件程度が空き家として増えていく可能性があるため、もし、この傾向が続くのであれば、空き家が急増すると予想される。</p> <p>そのような中、空き家の所有者等への対策のひとつとして、当事業が大きな力になってくると考えている。</p>
委員	<p>そのうえで、お聞きしたいのが、年間200件もの相談件数がある中で、現状の対応件数では業務過多なのではないか。</p>
生活安全課	<p>年間200件程度の相談は、空き家または今後空き家になる可能性の高い物件の所有者をはじめ、近隣に住む方々の相談も含まれている。当事業においては、所有者への支援が主になってくるが、必ずしもそれに限定されることではない。誤解を恐れずに申し上げるとすれば、年間200件程度の相談のうち、9割程度は所有者以外の近隣住民等の方々からの相談である。したがって、業務過多にはならないと考えている。</p>
委員	<p>実際には、近隣住民の方々が空き家で困っていることの方が多いとのことであるが、その対応は当事業で行うことではないのか。</p>
生活安全課	<p>近隣住民の方々からの相談があった場合の対応については、当課で行っている業務である。</p> <p>当事業は、近隣住民の方々からの相談を受けたのち、空き家に該当する場合にあっては、所有者等への提案等を行うものである。</p>
提案団体 高齢福祉課	<p>[発表：ドライバーサポートフィットネス「ドラサポ」]</p>
委員	<p>収支計画書について伺いたい。現在、高齢福祉課で取り組んでいる認知機能テストやいきいき健康体操といった高齢者の健康維持・増進を目的とした類似事業の参加費は無料である。当事業の参加費は1,000円であるが、参加費を徴収する理由を伺いたい。</p>
提案団体	<p>1,000円の参加費は、講師の謝礼金として支払うこととしている。また、専門性を持つ職員に指導していただき、その対価としてお支払いすることを考えている。当事業ではストレッチポールなど専門的な器具を使用し、座りながら運動するだけでなく、様々な運動を取り入れるよう心掛けている。</p>
委員	<p>事業の構成と予算について伺いたい。収支計画書内の参加費に積算内訳が記載されている全6回は、1人の参加者が通して6回参加し、かつ、定員10名で前後期合わせて20名の方の参加者を想定しているという認識でよろしいか。</p>
提案団体	<p>その通りである。</p>
委員	<p>そのうえで、お聞きしたいのが、収支計画書のチラシを印刷する印刷製本費100,000円と、ポスティングのための通信運搬費に300,000円の合計400,000円は全体事業費の半分以上を占めているが、参加者20名は、もう少し増やせないのかと思うが、20名を集めるために、400,000円以上をかけることが果たして予算上妥当なのかどうか。</p>

提案団体	<p>たとえば、市報への広報も検討されているので、場合によっては、それだけで足りてしまうのではないかと思うが、敢えて1回の定員を10名としているのは、プログラムの構成上、それ以上は増やせないというような制約があるのかどうか、予算の関係も含めて教えていただきたい。</p>
委員	<p>参加者を増やすことも可能ではあるが、できるだけ少人数で行うことで結果にこだわっていきいたため、1回の定員を10名、2回開催で20名と設定した。しかし、1回の参加者全員が10名でなければいけないわけではなく、柔軟に対応していきたい。</p> <p>宣伝広告料については、既に自主活動で集客のために3度ほど、収支計画書と同額の経費をかけたが、意外と集まらなかった。今回は、ありのまま使った金額をやらせていただいているのが現状である。</p>
提案団体	<p>テレビ報道などでは、高齢者の事故が多いといわれている中で、当事業は良い活動だと思うが、専門性の高い講師の方の指導をいただいた結果、評価が低下する参加者もいると思う。その場合、運転免許証の返納を促すのか。</p>
提案団体	<p>効果測定をした結果、参加者の中には運転大丈夫かなという方が、もしかしたらいるかもしれないので、その場合には、運転免許証の返納を促すこともあるかもしれない。基本的には、自分で運転して生活することが大事だと思うので、まずは、運転している段階で安全に運転できているのであれば、認知機能と運動機能の維持・向上できるよう対応させていただきたい。</p> <p>ただし、活動していく中で、運転継続が怪しいと思われる方については、高齢者支援センターをはじめ、関係機関に繋ぐことも視野に入れながら、対応させていただきたいと考えている。</p>
提案団体 生涯学習課 教育研究課	<p>[発表：子どもの新たな体験活動の創出と地域の再発見]</p>
委員	<p>現時点で想定している学校等はあるのか。</p>
提案団体	<p>令和5年度は、モデル的に実施していこうと現時点で学校を含め10団体を考えている。10団体の内訳は、8つの学校、1つの子ども会、1つのスポーツ少年団である。現在、8つの学校に打診しているところであり、7つの学校が実施したい意向を示している。</p> <p>ただし、当事業は決定ではないので、今後、具体的に進めていきたいと考えている。子ども会及びスポーツ少年団は、これから声を掛けていきたいと考えている。</p>
委員	<p>学校や子ども会等に協力いただきながら活動していくとのことであるが、子ども会が無くなっているところがある中で、実施するのは難しいのではないか。</p>
生涯学習課	<p>子ども会の数は、年々減少傾向にある。しかしながら、市内では約3,000人の小学生が子ども会に加入している。熱心に活動している地域・団体も多いので、当事業に興味を持つ団体もいるのではないかと考えている。</p>

委員	子どもたちの自主性を尊重し、自ら考えてもらうことは理想ではあると思うが、現在想定されているモデル的なプログラムについて具体的にどういったことを考えているのか、いくつか御紹介いただきたい。
提案団体	今行っている宿泊学習は、自然体験や生活体験が中心になっているが、当事業では水戸のまちなかを体験するので、分野は限定しない。 たとえば、まちなかにある施設に声を掛けたところ、人が来ないけれども、子どもたちの訪問する日時が分かれば、施設利用者と交流できるので、ぜひ当事業を実施してほしいと言われた。市内には、歴史、スポーツ及び農業といった様々な体験活動ができる施設等があるので、現在、協力いただける施設等を探しているところである。さらに開拓を進めて子どもたちに提示していきたい。
委員	ターゲットである子どもの年齢層を伺いたい。
提案団体	今行っている宿泊学習は、小学校5年生が中心であり、小学校高学年を想定している。また、今回は中学校にも声を掛けたところ、中学2年生と3年生は修学旅行があるが、中学1年生は行事がないので、ぜひ参加したいとのことであった。コロナ禍で過去3年間は体験活動が出来ずにいて、さらには、教職員が多忙なため新規プログラムを開拓できずに困っているので、学校側としても機会があればぜひ参加したい旨の意向であった。
委員	今、説明された内容が一つひとつモデル化されるということか。
提案団体	出来れば令和5年度に実施した学校に、活動内容を広報紙や冊子にまとめていただき、未実施の学校や市外の学校にも広報を行うとともに、水戸に足を運んでもらえるよう周知していきたい。
提案団体 ふるさと農業センター	[発表：キッズトレイルランニング大会]
委員	収支計画書について、収入には大会参加費と補助金とあるが、当事業を継続した場合、補助金に代わる収入源はあるのか。 また、参加者は小学校1年生から6年生とあるが、1年生も3キロメートルのコースを走るのか。
提案団体	大会参加費はお子さん一人につき1,000円ずつ御負担をいただいております、もちろん運営費として必要な収入源になる。ただし、手軽に参加いただける料金設定でありながら、参加者には責任のある申込をお願いしている。ただ何となく申し込み、キャンセルしてみたような人が増えてきてしまうので、申し込んだ以上は御家庭できちんと覚悟を持って参加していただくよう金額を設定した。 御質問の1年生の距離は、1キロメートルである。 コースについては、1年生から6年生まで2学年ずつ、1・2年生の部で1キロメートル、3・4年生の部で2キロメートル、5・6年生の部で3キロメートルのコースに分かれて、スタートのタイミングでテープやパイロンなどでコース設定を切り変えることによって、スタート・ゴールの距離を変更している。

委員	覚悟の参加費ということで、今後、参加費を上げることはあるのか。
提案団体	参加費を上げる検討はしていない。
委員	<p>昨年11月に大会を見学させていただいたが、学年ごとのレースのため、時間を持て余している印象があった。低学年の部が終了した後、すべての学年が終わるまでの間、親子で森林について学ぶ時間を設けるなど、時間を有効に使う検討が必要と考える。</p> <p>また、収支計画書の備品・消耗品費における大会機材運用費が340,000円と多くを占めているが、この費用はどのような用途になるのか。参加した子どもたちのために、同支出区分内の参加賞等に予算を振り分けてもよかったのではないか。</p>
提案団体	<p>昨年11月に実施した大会では、早く走り終えてしまった1・2年生は、表彰式までの間が、長く空いてしまったことは認識している。</p> <p>当初、当事業で使用している成沢トレイルランニングコース会場ではなく、森林公園において御家族で参加できるレクリエーションなどの時間に使っていただければと考えていたが、ただ待っているだけの御家庭も多かったので、森林公園のエリア案内をすべきだったと思う。</p> <p>子どもたちの学習の場については、これからの検討となるが、時間が無駄にならないよう、5・6年生が走るまでは前半に待たなければならない部分と、1・2年生は走り終えてから、後半に待たなければならない部分は、時間を有効に活用できるように、編成を変更するべきであると認識している。</p> <p>予算で一番見込まれるのは、スタート・ゴールの管理になるが、コロナ禍で参加者が並んで一斉にスタートするマスタートは出来ないので、マスタートをしない方法を検討した結果、参加者を複数グループに分けてスタートさせるウェーブスタートの方法を取った。</p> <p>参加者の手首に専用のタグを付けて、スタート時とゴール時に機材へタッチするとタイムを測定し、順位を決めることができた。この機材を運用するための業者への支払いが大きい。</p>
委員	提案書内の実施スケジュールの告知物作成については、紙媒体なのか、SNSなどの情報通信なのか伺いたい。
提案団体	SNSと紙媒体の双方の使用を想定している。本年度の大会周知においても、自団体の運営しているSNSを使用して参加を呼び掛けたが、お子さんのいる御家庭には届きにくいところがあったので、紙媒体であるA4チラシを作成し、水戸市に市内小学校への配布を依頼した。結果としては、紙媒体のチラシ配布後に、劇的に参加申込数が増えたため、今のところSNSよりも、紙媒体の方が有効であると考えている。
提案団体 泉町周辺地区開発事務所	〔発表：市民参画による道路等パブリック空間の有効活用検討事業〕
委員	昨年11月に本イベントに参加させていただいた。当日は雨で寒かったが、子どもたちはあの空間に遊びの場を与えられると、ブロックあそびや絵本などで楽しんでいる様子が見られたので、継続していくことが大切だと感じた。水戸芸術館の広場を通して、道路、新市民会館と続き、周辺店舗と一体的に足を運べるようになれば、さらにまちが盛り上がるのではな

<p>委員</p>	<p>いかと感じた。</p> <p>車が通らない安全な場所として、子ども対象だけではなく、多様な年齢層の方に安心して楽しんでいただけるような出展内容になれば、さらに良くなると思うので頑張してほしい。</p> <p>令和5年7月の新市民会館の開館にあたり、周辺の方々を含め、中心市街地の活性化が期待されている中で、これまで市民の方々から集約した意見を反映した事業やいろいろなプランを提案する内容となっている。事業の内容には、市民によるプロジェクトの運営とあるが、想定しているグループはあるのか。また、自走させるにあたり、資金面を含め非常に難しいと思うが、現時点で考えている支援の方法があれば伺いたい。</p>
<p>提案団体</p>	<p>令和6年度以降、自主活動として当事業を継続して行うには、グループの立上げが必須だと感じている。想定しているグループは、新市民会館や水戸芸術館の周辺住民で構成されている地元コミュニティに声を掛けていく予定であり、その中から意欲のある方が出てくれることを期待している。</p> <p>また、昨年11月の本イベントを雨天決行したことが功を奏し、これまで机上の計画だけであったものが、道路上に交流の空間ができたことで、当日出展した団体から自分たちで何かできるのではないかと、活動を表現する場として使えるのではないかとといった声が上がりに、良い効果を生んでいく。全く新しいグループというよりも、出展団体の中からグループを立ちあげることも可能ではないかと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>自身も昨年11月の本イベントに参加し、とても素晴らしい空間だった印象を持っており、さらなる発展が期待できるとともに、より多くの人に参加出来るといい。</p> <p>出展団体について、今後、固定されるのか、それとも自由にいろいろな団体が参加できる空間になるのか伺いたい。</p>
<p>提案団体</p>	<p>固定はせず、はじめの準備段階から声を掛けていき、手が挙げた団体に参加いただけるような想定をしている。</p>
<p>委員</p>	<p>大変興味深い内容であった。今後、継続するにあたっては、様々な課題があると思うが、たとえば、クラウドファンディングを活用するなど、協働していくなかで具体的なプランや、少しでも継続性を持って取り組むビジョンや展望があれば、教えていただきたい。</p>
<p>提案団体</p>	<p>先ほどのグループの立ち上げはもとより、資金面においては、道路の通行止めに係る支出が必須である。クラウドファンディングをはじめ、事業者からの寄付や協賛等をいただきながら、事業を進めていくことが必要と考えている。今後、協力いただけるよう働きかけていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>情報発信の仕方については、どのように考えているか。SNSや紙媒体以外でも、イベントの様子を動画で見られるようにするなど、様々な方法が考えられるが、この点について、伺いたい。</p>
<p>提案団体</p>	<p>情報発信はいろいろとやりたいことがあり、たとえば、資金面で説明したクラウドファンディングは、資金調達だけでなく、興味を持った方々の目に留まり情報が届きやすいので、情報発信のツールのひとつとして活用できると考えている。</p>

	一方で、紙媒体は費用対効果が低く、たとえば、500人の集客に対して10,000枚のチラシを配布する必要があるのかどうか、効率的に欲しい情報が本当に届くのかどうか疑問に思うことがあるので、SNSを中心に情報発信をしていきたい。
--	--

上記に相違ないことを確認する。

委 員

委 員